

ぱれっとスタッフによる 福祉用語解説

●「ヒヤリハット」と「ニヤリホット」

皆さんは「ニヤリホット」という言葉を聞いたことはあるでしょうか？もしかしたら「ヒヤリハット」はご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが。ヒヤリハットは重大事故に危うく繋がる一歩手前の状況を指す言葉です。冷や汗をかくときの「ヒヤリ」と、声も出ないほどあつと驚く「ハット」を掛け合わせた造語で、例えば自動車で搭載されているドライブレコーダーの映像で車と車が接触する寸前に回避し「もう少しで事故になりそうだった。怖い思いをした」というシーンを観たことがあると思います。このような「ヒヤリハット」な場面は、福祉現場において言えば、例えば「立位が困難で車椅子を使っている利用者が自力で立ち上がろうとして、転倒する直前だったところを職員が支えた」という時のことを指します。ヒヤリハットはこうしたケースを職員間で共有することで、次からの対応の仕方を検討し、怪我や事故を未然に防ぐ目的があります。

ヒヤリハットとは反対に、有料老人ホーム「ライフ&シニアハウス井草」(東京都杉並区)が始めた「ニヤリホット」という取り組みは、支援していて思わず笑みがこぼれたり、心が和んだりする言葉や振る舞いを見つけ出し、カードに残し職員で共有することを指します。先に挙げた福祉現場の例を考えると、「●●を取ろうとして、自力で立ち上がろうとしている。意欲があれば身体機能を伸ばすことができるかも知れない！」と肯定

今月号から新しく、福祉用語解説という連載を設けることになりました！記念すべき第一回は、私のお気に入りの福祉用語である「ニヤリホット」について取り上げたいと思います。

的に捉え、思わず嬉しくなってしまうのがニヤリホットです。

●「ニヤリホット」が生み出す効果

ニヤリホットは様々な福祉の現場で広がりを見せています。特別養護老人ホームや就労継続支援B型事業所を運営している社会福祉法人足立邦栄会(東京都足立区)では、2018年7月の1ヶ月間を【「ニヤリホット」をやってみよう月間】と位置づけ各部署で取り組んだ結果、実施後のアンケートに「利用者の表情をよく見るようになった」「利用者の様子をプラスの目で捉えることができるようになった」という職員からの前向きな意見が得られたという報告がありました。ニヤリホットを職員間で共有することによって職員間のコミュニケーションが増え、職場の雰囲気が良くなったそうです。また利用者にとっても、良いところを褒められることによって自信が付き、積極的にリハビリ等に取り組むことができたという事例もあるとのこと。~~~~~

重大な事故を防ぐためには危険の種を見つけることも重要ですが、物事のマイナス面ばかりに着目するのではなく、良い面を見つけてその情報をスタッフ間で共有し、その人の持つ可能性に気づき、広げることは素晴らしいと感銘を受けました。私も日々、人の良いところを沢山見つけて相手に言葉で伝え、みんなと話す時間を大事にしていきたいと思えます。

(おかし屋ぱれっと 松本亜沙子)